

有機農業アカデミー教育計画（案）

授業内容（シラバス）

科目総括表

区分	有機農業専攻
(農産園芸課程との) 共通科目	野菜栽培各論Ⅰ、野菜栽培各論Ⅱ、農業経営、農業簿記、 農薬概論、農業機械Ⅰ 病害虫Ⅰ（病害）、病害虫Ⅱ（虫害）、環境創造型農業、 鳥獣害対策
専攻科目	有機農業概論、土壌肥料、植物生理、 生産工程管理（GAP）+有機 JAS、流通・販売・マーケティング、 先進事例講義、地域農業校外学習、農業基礎・実技演習
実習	専攻実習 先進農家派遣実習

参考

- 1 講義・実習の内容は変更される場合がある。
- 2 講義は 15 時間をもって 1 単位とし、演習は 30 時間をもって 1 単位とする。
実習は 45 時間をもって 1 単位とする。
この場合の 1 時間は単位時間であり、45 分を 1 時間として計算する。
- 3 授業時間
1 時限 9:00～10:30 2 時限 10:40～12:10
3 時限 13:10～14:40 4 時限 14:50～16:20
とし、1 時限をもって単位時間を 2 時間とする。
- 4 講師
別冊の講師とする。

講義内容（有機農業専攻）

区分	科目名	単位数 (時間)	ねらい	内容	成績評価の方法 教科書
共通科目	野菜栽培各論Ⅰ	2 (30)	県内野菜産地の概要、イチゴを中心として施設野菜の基礎的技術を学ぶ。	県内野菜産地の概要。野菜産地の歴史・生産状況・特徴。イチゴの生理生態と栽培技術	野菜栽培の基礎（農山漁村文化協会）
	野菜栽培各論Ⅱ	2 (30)	野菜の生理生態・作型・品種 ICT 技術を含む栽培技術を学ぶ	キャベツを中心とした秋冬野菜の生理生態・作型・品種・栽培技術。施設栽培における複合環境制御技術の基本と必要性。特にトマトやイチゴの炭酸ガス施用効果等について	野菜栽培の基礎（農山漁村文化協会）
	農業経営	1 (15)	農業経営の基礎理論と日本農業の現状について理解を深める。	農業の動向と農業経営。農業経営の組織と運営。農業経営の会計。農業経営の診断と設計。農業経営と情報	農業経営概論（実教出版）
	農業簿記	1 (15)	事例を元に経営開始から決算書作成までの理解を深める。	各種帳簿を用いた複式農業簿記。コンピューターを用いた複式農業簿記の実践	農業簿記検定教科書3級・問題集3級（大原出版）
	農薬概論	1 (15)	農薬の基礎知識・詳細について学ぶ。	農薬とは。農薬の種類。農薬の作用機作。農薬の安全性。登録制度。農薬の残留基準。環境への影響	農薬のきほん（誠文堂新光社）
	農業機械Ⅰ	1 (15)	農業機械の基礎と構造についての知識の習得	農業と農業機械。トラクタの構造と操作。原動機の構造と整備。耕耘整地用機械の構造と利用	農業機械の構造と利用（農山漁村文化協会）
	病害虫Ⅰ（病害）	1 (15)	病害の発生活消長や生態、防除法を学ぶほか実習等を通じて病原菌について学ぶ。	病害発生の仕組みと防除。抵抗性品種の利用。作物と害虫の組み合わせ。総合有害生物管理の考え方	図解でよく分かる病害虫のきほん（誠文堂新光社）
	病害虫Ⅱ（虫害）	1 (15)	害虫の発生活消長や生態、防除法を学ぶ	昆虫の基礎知識。害虫発生の仕組みと被害。害虫の防除法。総合的有害生物管理の考え方	プリント
	環境創造型農業	1 (15)	環境を守り、食の安全を支える環境に優しい農業について習得する。	環境創造型農業の内容と目的。県の推進施策。有機 JAS 及びひょうご安心ブランド等の取組事例。推進場の課題と今後の推進方策。有機農業と観光農業	プリント

区分	科目名	単位数 (時間)	ねらい	内容	成績評価の方法 教科書
共通科目	鳥獣害対策	1 (15)	鳥獣害の現状、被害の特徴、対策を学ぶ	県下の鳥獣害の現状。シカ、イノシシ、サル、クマ、アライグマ、ヌートリアハクビシン他の被害対策	プリント
専攻オリジナル科目	有機農業概論	4 (60)	有機農業の歴史や種類等を客観的知識として学び、有機農業への理解を深める。	有機農業の特長。土づくりの技術（根圏微生物のはたらき、発酵有機物を使いこなす、緑肥作物等）。作物輸林の技術（種子に関わる技術、育苗技術、除草対策、周年栽培化等）。病虫害回避の技術。有機農業と連動させる資源循環、省エネルギー。不耕起栽培の可能性	解説 日本の有機農法（筑波書房）
	土壌肥料	2 (30)	有機農業の基本技術である土づくりや肥培管理等の知識を学ぶ。	土と肥料の基礎知識。植物の必須元素と栄養特性。施肥の原理と肥料の種類・特性。土壌診断と土づくり。環境に優しい施肥技術	プリント
	植物生理	2 (30)	植物生理の知識を深める。	植物生理学とは。光合成と代謝。発生と形態形成。環境。成長と植物ホルモン。栄養	絵とき 植物生理学入門（オーム社）
	生産工程管理 (GAP) + 有機JAS	1 (15)	生産工程管理の考え方、実施手法を通じ、農産物の安全管理、生産の効率化の重要性を学ぶ。	1. GAP GAP とは何か。農場にGAP を導入。審査・認証の仕組み。GAP と農産物販売。導入の利点 2. 有機 JAS 認証の仕組み。審査のポイント。導入の利点	プリント
	流通・販売・ マーケティング	2 (30)	生産物のストーリー等によるブランド化、販路開拓、商談のポイント等利益を生む生産物の販売方法等を学ぶ。	有機農産物の流通の特徴。小売り事業者が求めるもの。消費者が求めるもの	プリント
	先進事例講義	1 (15)	県内外の優れた有機農業経営の事例を、講義を通じて学ぶ。	有機農業経営の実例	プリント
	地域農業校外 学習	2 (30)	県内外の有機農業経営の実態を、現地視察等を通じて学ぶ。	有機農業者の農園を視察訪問	プリント
	農業基礎・実技 演習	1 (30)	小農具の取扱や手入れ、ロープワーク等農業に必要な技術を演習を通じて学ぶ。		プリント

実習

科目名	単位数 (時間)	ねらい	内容
専攻実習	19 (855)	実習ほ場を利用し、個人ごとに土づくりの方法や周年で野菜栽培を行うことにより、短期に栽培技術と経営感覚を養う。	実習ほ場（露地、ビニールハウス）で共通品目及び選択品目を野菜栽培
先進農家派遣実習	4 (180)	県内有機農業実践者の下に出向き、有機農業技術や地域への溶け込みなどを先輩農業者から直接学ぶ。	就農希望地域や農法、栽培品目を踏まえた有機農業実践者に出向いた実習

市場調査・販売体験等の実習計画

月	内容	場所（行き先）	対象	備考
年間	農大直売所「夢花菜」	農大	全員	
10月	県民農林漁業祭	明石市	全員	明石公園
11月	農大収穫祭	農大	全員	

有機農業専攻実習計画

1 ねらい

野菜類のビニールハウス及び露地での播種から栽培管理、収穫・出荷調製までの基本的な有機栽培の知識と技術を習得する。

2 主な実習内容

(1) 施設野菜

- ・葉物野菜の出荷計画に基づく栽培管理
- ・果菜類の栽培管理
- ・たい肥や緑肥、微生物等による土づくり
- ・太陽熱や蒸気消毒機による土壌消毒、病虫害対策

(2) 露地野菜

- ・果菜類、根菜類、葉菜類の栽培管理
- ・たい肥や緑肥による土づくり
- ・太陽熱による土壌消毒、病虫害対策

(3) その他

- ・基本的な農業機械、小農具の取扱
- ・ぼかしたい肥作りや基本的な有機農業特有の技術実習
- ・各自の希望に応じた有機農業実践者のもとでの実習
- ・直売所（夢果菜）、量販店等への出荷・販売実習

3 作付計画

場所・品目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ビニールハウス												
共通品目	△											
選択品目												
緑肥												
路地ほ場												
共通品目												
選択品目												
緑肥												

有機農業年間実習内容

ほ場		施設（ビニールハウス）			露地ほ場		
月	旬	共通品目	選択品目	緑肥	共通品目	選択品目	緑肥
4月	上						
	中	蒸気消毒・播種		播種	蒸気消毒・播種		播種
	下						
5月	上						
	中	農家派遣実習	同左	同左	同左	同左	同左
	下						
6月	上						
	中						
	下						
7月	上			すき込み			すき込み
	中						
	下	太陽熱養生	同左	同左	同左	同左	同左
8月	上	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	中	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	下	↓	↓	↓	↓	↓	↓
9月	上						
	中						
	下						
10月	上						
	中						
	下						
11月	上						
	中						
	下						
12月	上						
	中						
	下						
1月	上						
	中						
	下						
2月	上						
	中						
	下						
3月	上						
	中						
	下						